



P II - ⑤

心の動きに共感しありのままを受け止める ～106歳のA様らしい生活の為に～

徳島県

医療法人 凌雲会 グループホーム親の家
介護福祉士 濱田 広美

親の家基本方針

入居者は介護を受ける人ではなく
生活の主役である。
心の動きに共感し**ありのまま**を
受け止める。

①【はじめに】

“常に利用者と一緒に”

106歳のA様らしさを考え、これからも
元気に過ごしていただけるよう、今までの
支援を振り返り、新たな支援策を考えた。

②【事例紹介】

A様106歳 要介護4
車椅子使用
80歳まで、自営のガソ
リンスタンドで働かれていた。
世話好きで90歳までボランティアをされ
ていた。



③【具体的な取り組み】

取り組み前の様子

新たな支援策

(食事)
摂取量にむらがある。

他の利用者と同じ
食事環境や
楽しみのある
摂取環境を作る。



(排泄)
リハビリパンツ使用。

日中はほとんど
失敗がないので
布パンツの方がい
いのではないかと



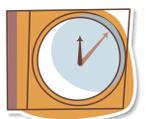
(起床)
起床時寝ているのを起
こされると機嫌が悪い。

他の入居者や食事に合わすの
ではなく、**A様のタイミング**に合
わせて起きる。



(昼寝)
リビングでウトウトする
ことが多くなっている。

疲れが溜まって
いるのでは？
様子を見て**昼寝**
を行う。



(若返り)
年に数回不定期に精神
的、身体的に若返りが
見られる。

若返り時、玄関
へ良く行かれる。
家に帰りたい
のではないかと



④【活動の成果と評価】

(食事)

他の利用者と同じものや1番に配膳することで満
足そうにテーブルに着かれる。カロリーメイト飲料
が主流であるが、ほとんど体調を崩さず元気に過
ごされる。

(排泄)

布パンツへの変更後も、
ほとんど失敗なし。



(起床)

A様のタイミングに合わせて起きてい
ただくことで機嫌よく起き、トイレ
誘導や更衣もスムーズに行える。



(昼寝)

午後に昼寝をすることで疲れがとれ、すっきりと
した顔で夕方まで機嫌よく過ごされる。



(若返り)

心身ともに元気だから外出ができた。



⑤【考察・まとめ】

A様らしい生活が
維持できるように
支援しよう！



A様にとって
嬉しいことは？
幸せなことは？



その人らしい生活



106歳だから、
これはダメ
こうしないと。

スタッフは入居者の笑顔に癒され元気をも
らっている。だから介護に追われているスタッ
フではなく、**一緒に時間を共有するスタッフ**
でありたい！